

第16章 災害・消防・警察・海上保安

1	災 害	361
16-1	平成29年中の台風・大雨等による被害状況	362
16-2	市町村別台風・大雨等による被害状況	362
16-3	年次別台風・大雨等被害状況	363
2	消 防	364
(1)	火災発生状況	
(2)	消 防 現 勢	
16-4	市町村別の火災発生状況	365
16-5	月別火災発生状況	365
16-6	原因別火災発生状況	366
16-7	大火災発生状況（損害額2,000万円以上）	366
16-8	消 防 現 勢	366
3	警 察	367
(1)	交通事故発生状況	
(2)	刑法犯発生状況	
16-9	市町村別交通事故発生状況	368
16-10	刑法犯市町村別発生状況	369
4	海 上 保 安	370
16-11	海難事故の発生状況	370
16-12	機動力（巡視船艇）	371
16-13	船舶交通安全協議会	371
16-14	奄美群島地区スキューバダイビング安全対策協議会	371
16-15	奄美海上保安部が管理する航路標識の市町村別設置状況	372
16-16	民間救助組織	372

1 災 害

平成29年は、8月に台風5号、9月に台風18号、10月に台風21号、22号が奄美地方に接近、また、8月から11月にかけて計3回の豪雨により大きな被害が発生した。

被害額については、1,017,174千円となり、前年と比べて953,351千円の増加となった。項目別では、農林水産被害が771,286千円（被害総額の75.8%）で最も多く、次いで農林水産業施設の123,580千円（同12.1%）、公共土木施設の86,646千円（同8.5%）となっている。

16-1 平成29年中の台風・大雨等による被害状況 (数値は市町村の報告による)

期 間	台 風 大 雨 等	人的被害 (人)		住 家 被 害 (棟)					非住家 被 害 (棟)
		死 亡 不 明	負 傷	全 壊	半 壊	一 部 破 損	床 上 浸 水	床 下 浸 水	
29. 8. 4 ~ 8. 6	台 風 5 号	0	0	0	0	122	42	296	19
29. 8. 7	大 雨	0	0	0	0	0	0	0	0
29. 9. 4 ~ 9. 5	大 雨	0	0	0	1	0	15	68	19
29. 9.16 ~ 9.17	台 風 1 8 号	0	0	0	0	0	0	0	0
29.10.21 ~ 10.22	台 風 2 1 号	0	0	0	0	0	0	0	0
29.10.28 ~ 10.29	台 風 2 2 号	0	0	0	0	1	1	0	0
29.11.17	大 雨	0	0	0	1	85	64	0	91
合 計		0	0	0	2	208	122	364	129

※期間は、災害警戒本部設置から廃止までの期間である。

16-2 市町村別台風・大雨等による被害状況 (数値は市町村の報告による)

資料：大島支庁総務企画課
 期間：平成29年1月～12月
 単位：千円

区 分 市町村名	人的被害 (人)	農林水産業 施 設	公 共 土 木 施 設	そ の 他 の 公 共 施 設	農 林 水 産 被 害	そ の 他	合 計
奄 美 市	0	15,588	0	0	82,883	0	98,471
大 和 村	0	0	0	0	4,983	0	4,983
宇 検 村	0	0	0	0	3,163	0	3,163
瀬 戸 内 町	0	60,327	86,646	140	850	0	147,963
龍 郷 町	0	1,713	0	0	2,498	0	4,211
喜 界 町	0	45,952	0	8,792	297,700	26,730	379,174
徳 之 島 町	0	0	0	0	0	0	0
天 城 町	0	0	0	0	193,461	0	193,461
伊 仙 町	0	0	0	0	141,935	0	141,935
和 泊 町	0	0	0	0	0	0	0
知 名 町	0	0	0	0	26,420	0	26,420
与 論 町	0	0	0	0	17,393	0	17,393
合 計	0	123,580	86,646	8,932	771,286	26,730	1,017,174

資料：大島支庁総務企画課
 期間：平成29年1月～12月

被 害 金 額 (単位：千円)										備 考 被害地域等
農 林 水 産 業 施 設	公 共 土 木 施 設	そ の 他 の 公 共 施 設	農 産 被 害	林 産 被 害	畜 産 被 害	水 産 被 害	商 工 被 害	そ の 他	計	
67,662	86,646	7,772	173,625	0	514	0	1,230	0	337,449	奄美群島全域
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域
0	0	1,020	30,741	0	0	0	25,500	0	57,261	奄美群島全域
154	0	0	32,607	0	0	0	0	0	32,761	奄美群島全域
459	0	0	80,257	0	0	0	0	0	80,716	奄美群島全域
55,305	0	140	447,132	0	6,261	0	0	0	508,838	奄美群島全域
0	0	0	149	0	0	0	0	0	149	奄美群島全域
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域
123,580	86,646	8,932	764,511	0	6,775	0	26,730	0	1,017,174	

16-3 年次別台風・大雨等被害状況 (数値は市町村の報告による)

資料：大島支庁総務企画課
 期間：各年1月～12月
 単位：千円

年次	区分	住家等	農林水産業 施設	公共土木 施設	その他の 公共施設	農林水産 被害	その他	合計
	平成 17	—	226,395	915,665	109,980	127,524	39,612	1,419,176
18	—	17,000	109,597	700	19,380	7,500	154,177	
19	—	20,130	333,400	87,607	216,495	47,230	704,862	
20	—	34,742	100,547	2,000	682	176	138,147	
21	—	26,162	899	6,290	68,897	570	102,818	
22	—	3,114,301	2,995,324	388,800	222,117	1,273,876	7,994,418	
23	—	1,062,056	1,547,635	500,010	2,052,668	766,042	5,928,411	
24	—	1,453,380	2,722,122	604,918	2,339,458	614,400	7,734,276	
25	—	261,886	32,450	74,813	363,302	155,350	887,801	
26	—	15,141	166,968	24,805	785,791	39,995	1,032,700	
27	—	6,108	29,714	4,608	285,675	0	326,105	
28	—	15,707	19,172	0	28,944	0	63,823	
29	—	123,580	86,646	8,932	771,286	26,730	1,017,174	

(注)「住家等」については、平成16年度以降、集計されていない。

2 消 防

(1) 火災発生状況

平成28年中の火災発生件数は54件で、前年に比べ23件減少しており、6.8日に1件の割合で火災が発生したことになる。

市町村別では、奄美市が16件（奄美群島全火災の29.6%）で最も多く、次いで、伊仙町8件、和泊町6件、知名町5件、瀬戸内町・喜界町・徳之島町各4件、龍郷町・天城町2件、大和村・宇検村・与論町1件の順となっている。

人口（平成27年3月31日住民基本台帳による）1万人当たりの出火件数を表す出火率では、伊仙町の11.5が最も高く、次いで和泊町の8.6、知名町の7.9の順となっている。

火災種別にみると、「建物」火災が28件（奄美群島全火災の51.9%）で、前年に比べ9件の減少、「林野」火災が1件（同1.9%）で、前年に比べ2件の減少、「車両」火災が7件（同13.0%）で、前年に比べ1件の減少、「船舶」「航空機」火災が各0件、「その他」火災（田畑の野焼き等の火災）が18件（同33.3%）となっている。

火災による死者は3人で、前年に比べ2人の減少である。また、負傷者5人で前年と同数となっている。

焼損棟数は54棟で前年に比べ28棟の減少、り災世帯数は26世帯で前年に比べ42世帯の減少、り災人員は51人で前年に比べ79人の減少となっている。

損害額は71,277千円で、前年に比べ105,211千円の減少で、火災1件当たり約1,320千円、1日当たり約195千円が灰になったことになる。

損害額2千万円以上の大きな火災は、奄美市で1件発生している。

出火原因では、「たき火」と「火入れ」がともに8件（全火災の14.8%）で最も多く、次いで「こんろ」4件（同7.4%）、「風呂・かまど」3件（同5.6%）の順となっている。

(2) 消 防 現 勢

消防本部数は平成29年4月1日現在で前年と変わらず3本部となっている。消防職員数については2人増加しており246人、条例定員に対する充足率は、99.2%である。

また、消防吏員246人の平均年齢は39.2歳となっている。

消防団数は12団、消防分団数は90分団で、消防分団数については1分団の減少である。消防団員は、1,510人で前年に比べ11人減少し、平均年齢は41.2歳で条例定員に対する充足率は91.5%となっている。

各消防本部が管理する消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ等の消防機械のうち、消防ポンプ自動車の充足率は100%（平成27年4月1日時点（3年に1回調査））となっており、救急自動車の所有台数は前年と同数で21台となっている。

また、火災鎮圧のため必要不可欠な消防水利については、平成27年4月1日時点で充足率75.9%となっている。

消防ポンプ自動車及び消防水利充足率の県平均は、消防ポンプ自動車が88.0%、消防水利が65.5%であり、消防ポンプ自動車充足率、消防水利充足率ともに県平均以上（平成27年4月1日時点）となっている。

16-4 市町村別の火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課
期間：平成28年1月～12月

市町村名	出火件数							損害額(千円)								
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	爆発	
大島地区	奄美市	16	9	1	1			5	47,118	46,728		375			15	
	大和村	1	1						163	163						
	宇検村	1			1				69	0	69					
	瀬戸内町	4	4						996	996						
	龍郷町	2	1					1	1,542	1,542						
	喜界町	4	1					3	321	269					52	
計	28	16	1	2	0	0	9	50,209	48,156	0	444	0	0	67	0	
徳之島	徳之島町	4	2		1			1	1,086	1,019		29			38	
	天城町	2						2	57					57		
	伊仙町	8	4		3			1	16,603	14,425		2,130		48		
	計	14	6	0	4	0	0	4	17,746	15,444	0	2,159	0	0	143	0
沖与論	和泊町	6	3		1			2	1,397	1,339		43			15	
	知名町	5	3					2	1,925	1,925						
	与論町	1						1								
	計	12	6	0	1	0	0	5	3,322	3,264	0	43	0	0	15	0
合計	54	28	1	7	0	0	18	71,277	66,864	0	2,646	0	0	225	0	
平成27年	77	37	3	8	0	0	29	176,488	171,865	0	2,455	0	0	2,168	0	
比較	△23	△9	△2	△1	0	0	△11	△105,211	△105,001	0	191	0	0	△1,943	0	

市町村名	焼損棟数					り災世帯数				死傷者			損害面積		1件当たりの損害額(千円)	
	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損	小損	り災人員	死者	負傷者	建物床面(m ²)	林野(a)		
大島地区	奄美市	19	10		4	5	13	5		8	25	1	3	667	1	2,945
	大和村	1			1		1			1	3			1		163
	宇検村															69
	瀬戸内町	7	5		1	1	4	2		2	4		1	102		249
	龍郷町	6	3		1	2	1			1	2			105		771
	喜界町	1	1											5		80
計	34	19	0	7	8	19	7	0	12	34	1	4	880	1	1,793	
徳之島	徳之島町	2	1		1		3	1		2	5					272
	天城町															29
	伊仙町	5	3	1	1		2	2			8	2		436	0	2,075
	計	7	4	1	2	0	5	3	0	2	13	2	0	436	0	1,268
沖与論	和泊町	6	4		2									149		233
	知名町	7	3		3	1	2	1		1	4		1	168		385
	与論町															0
	計	13	7	0	5	1	2	1	0	1	4		1	317	0	277
合計	54	30	1	14	9	26	11	0	15	51	3	5	1,633	1	1,320	
平成27年	82	38	4	22	18	68	32	1	35	130	5	5	3,141	14	2,292	
比較	△28	△8	△3	△8	△9	△42	△21	△1	△20	△79	△2	0	△1,508	△13	972	

※火災種別が2以上複合する火災は、焼き損害額の大なるものの種別に計上。

16-5 月別火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課
期間：平成28年1月～12月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件数	4	10	9	2	3	3	1	5	2	3	4	8	54
前年件数	9	12	16	2	7	3	3	6	4	7	3	5	77
増減数	△5	△2	△7	0	△4	0	△2	△1	△2	△4	1	3	△23

16-6 原因別火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課
期間：平成28年1月～12月

順位	(1)	(1)	(3)	(4)	(5)	(5)	(5)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)					—	—	—	
	火入れ	たき火	こんろ	風呂かまど	マッチ・ライター	溶接機・切断機	内燃機関	灯火	電気機器	たばこ	放火の疑い	電灯電話等の配線	放火	衝突の火花	配線器具	交通機関内配線	煙突・煙道	排気管	その他	不明・調査中	計
件数	8	8	4	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	3	14	54
前年件数	14	3	6	0	4	1	0	0	3	2	2	1	0	0	4	1	1	1	15	15	77
前年順位	(1)	(5)	(2)		(3)	(10)			(5)	(7)	(7)	(10)			(3)	(10)	(10)	(10)	—	—	—
増減数	△6	5	△2	3	△2	1	2	2	△2	△1	△1	0	1	1	△4	△1	△1	△1	△12	△1	△23

16-7 大火災発生状況（損害額2,000万円以上）

資料：鹿児島県消防保安課
期間：平成28年1月～12月

出火月日	出火時刻	市町村名	火元の用途	原因	焼損棟数	り災世帯	り災人員	死者	負傷者	焼損床面積(m ²)	損害額(千円)
8月15日	17:00	奄美市	専用住宅	おぼろげ	7	9	20	0	2	164	42,258

16-8 消防現勢

資料：鹿児島県消防保安課
期日：平成29年4月1日

区分 市町村名	消防団(消防本部)		消防団(職員)			消防ポンプ等							消防水利				
	団	分	条	現	平均	自消	ボ水	付は	小型動力	救	そ	ポン	消	防	そ	充	
市町村名	数	数	数	員	年齢	防	ポン	付	ポン	急	の	プ	火	水	の	足	
			例			動	プ	自	ポン	自	他	自動	栓	そう	他	率	
奄美市	1	16	452	403	43.2	8	2	-	42	-	3	-	459	133	38	-	
大和村	1	5	52	49	38.9	1	1	-	10	-	-	-	-	28	9	-	
宇検村	1	7	82	79	43.0	1	1	-	7	-	-	-	6	30	2	-	
瀬戸内町	1	4	130	123	45.7	1	1	-	15	26	-	-	65	65	4	-	
龍郷町	1	4	153	140	41.2	1	3	-	10	-	1	-	47	69	5	-	
喜界町	1	9	130	119	40.1	2	3	-	6	1	3	-	-	127	4	-	
大島地区消防組合	1	-	158	157	40.1	2	5	2	1	-	13	14	100	-	-	81.8	
徳之島町	1	11	161	146	41.6	1	5	-	11	-	1	-	29	92	11	-	
天城町	1	3	80	72	42.9	2	1	-	-	-	2	-	56	58	16	-	
伊仙町	1	8	74	71	42.4	1	1	-	-	2	1	-	31	52	1	-	
徳之島地区消防組合	1	-	49	48	42.2	-	3	-	-	-	4	2	100	-	-	76.6	
和泊町	1	7	120	111	38.4	1	6	-	3	1	1	-	120	81	95	-	
知名町	1	13	145	135	36.2	2	7	-	5	-	-	-	126	128	4	-	
与論町	1	3	72	62	40.7	2	3	-	1	-	1	-	64	75	29	-	
沖永良部与論地区 広域事務組合	1	-	41	41	35.4	-	2	-	-	-	4	3	100	-	-	69.3	
計	(本部) 団12	90	1,651	1,510	41.2	23	34	-	110	30	-	13	-	1,003	938	218	75.9

注1 消防職員の平均年齢は消防吏員の平均である。
注2 ポンプ自動車充足率及び消防水利充足率は、平成27年4月1日時点（3年に1回調査）の数値である。

3 警 察

(1) 交通事故発生状況

平成29年の交通事故の人身事故発生件数は、164件で前年に比べ17件減少した。

交通事故による死者は3人で、前年に比べ5人減少、傷者については175人で17人減少した。

件数を市町村別にみると、奄美群島で件数の最も多いのは奄美市の59件（全体の36.0%）で、次いで徳之島町の22件（同13.4%）となっている。また、島別に件数の割合をみると、奄美大島が88件53.7%、喜界島が3件1.8%、徳之島が36件22.0%、沖永良部島が26件15.8%、与論島が11件6.7%となっている。

死者は、天城町2人、龍郷町1人の合計3人となっている。

(2) 刑法犯発生状況

平成28年の刑法犯の総認知件数は、419件で前年に比べ3件の増加となっている。

市町村別にみると件数が最も多いのが、奄美市の189件（全体の45.1%）で前年と比べると7件の減少、次いで徳之島町の60件（14.3%）で1件の減少となっている。

罪種別にみると、窃盗犯が283件で全体の67.5%を占めている。

なお、検挙件数は210件となっている。

16-9 市町村別交通事故発生状況

期間：平成28年1月～12月
 単位：人，件，台数

区分 市町村名	人口	件数 (人身)	死者	傷者	前年比増減			自動車保有車両数			人口1万人 当たりの 死傷者数
					件数 (人身)	死者	傷者	貨物・乗合・乗用・特種用 途・二輪数	軽自動車数	合計	
総数	107,238	164	3	175	-17	-5	-17	26,775	57,235	84,010	16.6
奄美大島	59,894	88	1	97	-16	-4	-13	14,701	27,158	41,859	16.4
奄美市	42,235	59	0	64	-24	-3	-25	10,078	18,664	28,742	15.2
大和村	1,453	1	0	1	1	0	1	458	747	1,205	6.9
宇検村	1,706	2	0	3	0	0	1	501	880	1,381	17.6
瀬戸内町	8,735	13	0	14	8	0	8	2,163	3,762	5,925	16.0
龍郷町	5,765	13	1	15	-1	-1	2	1,501	3,105	4,606	27.8
喜界島	6,986	3	0	3	-2	0	-4	1,507	4,329	5,836	4.3
喜界町	6,986	3	0	3	-2	0	-4	1,507	4,329	5,836	4.3
徳之島	22,749	36	2	38	-15	-1	-15	6,138	15,592	21,730	16.7
徳之島町	10,659	22	0	22	-2	-1	-3	2,682	6,531	9,213	20.6
天城町	5,792	10	2	11	0	1	1	1,812	4,357	6,169	22.4
伊仙町	6,298	4	0	5	-13	-1	-13	1,644	4,704	6,348	7.9
沖永良部島	12,522	26	0	26	13	0	12	3,500	7,468	10,968	20.8
和泊町	6,546	13	0	13	9	0	8	1,937	3,857	5,794	19.9
知名町	5,976	13	0	13	4	0	4	1,563	3,611	5,174	21.8
与論島	5,087	11	0	11	3	0	3	929	2,688	3,617	21.6
与論町	5,087	11	0	11	3	0	3	929	2,688	3,617	21.6

注1 人口は平成28年10月1日現在推計人口（県統計課資料）
 注2 件数，死者，傷者は平成29年12月末現在（県警察本部交通企画課）
 注3 車両台数は平成28年3月末現在（第4章70ページ自動車保有車両数より）ただし，不明分，軽二輪は除く。
 注4 奄美大島には，加計呂麻島，請島，与路島を含む。

16-10 刑法犯市町村別発生状況

資料：鹿児島県警察本部刑事企画課
期間：平成28年1月～12月

市区町村	包括罪種		凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	知能犯	風俗犯	その他の 刑法犯	総計	平成27年 の状況
奄美市	認知	1	16	141	5	1	25	189	196	
	検挙	1	15	61	5	2	8	92	75	
大和村	認知	0	0	1	0	0	0	1	0	
	検挙	0	0	1	0	0	0	1	0	
宇検村	認知	0	0	1	0	0	1	2	1	
	検挙	0	0	1	0	0	0	1	0	
瀬戸内町	認知	1	11	23	0	2	4	41	40	
	検挙	1	12	11	0	2	1	27	26	
龍郷町	認知	0	3	12	1	0	2	18	10	
	検挙	0	2	4	1	0	0	7	10	
喜界町	認知	0	1	16	0	0	4	21	11	
	検挙	0	1	6	0	0	0	7	3	
徳之島町	認知	0	5	30	1	1	23	60	61	
	検挙	0	6	20	3	1	8	38	27	
天城町	認知	0	3	10	1	0	5	19	20	
	検挙	0	3	5	1	0	0	9	9	
伊仙町	認知	0	1	13	0	0	1	15	31	
	検挙	0	1	0	0	0	1	2	18	
和泊町	認知	0	0	10	0	0	4	14	26	
	検挙	0	0	2	1	0	0	3	13	
知名町	認知	1	6	22	0	0	5	34	15	
	検挙	1	6	13	0	0	1	21	4	
与論町	認知	0	0	4	0	0	1	5	5	
	検挙	0	0	2	0	0	0	2	1	
総計	認知	3	46	283	8	4	75	419	416	
	検挙	3	46	126	11	5	19	210	186	

※検挙件数については、発生地計上方式をとっている。

包括罪種の内訳

- 凶悪犯……殺人，強盗，放火，強姦
- 粗暴犯……暴行，傷害，脅迫，恐喝など
- 窃盗犯……窃盗
- 知能犯……詐欺，横領，偽造など
- 風俗犯……賭博，わいせつ
- その他の刑法犯……上記以外の刑法犯

4 海上保安

奄美海上保安部管内において、平成28年に発生した船舶事故は、13隻であり前年に比べ3隻減少した。

種類別に見ると衝突、乗揚の順となっている。原因別では、見張不十分、操船不適切、船位不確認などの人的ミスによるものが大半を占めている。

また、平成28年の人身事故者数は24名であり、前年に比べて1名減少した。マリレジャー中の事故種類別としては、前年と変わらず、遊泳中や磯遊び中の事故割合が高く、遊泳や磯遊びを行う場所についての知識不足やシュノーケル使用時の技能不足が主な原因で、群島外からの観光客や帰省客による事故が多く発生した。

海難発生時の救助活動は時間との闘いでもある。よって広い奄美の海域では、漁協や海上工事業者などを主体とする民間救助団体の組織化及びその協力は不可欠である。これらの状況を踏まえて、「水難救済会と論救難所」が、平成7年に設置されたのを契機として、平成14年までに奄美群島内の全市町村に救難所が設置され、救助活動を実施している。

プレジャーボート関係者等の協力を得て、民間有志による安全活動を目的に発足した海上安全指導員制度により、第十管区海上保安本部長の指定を受けた8名の海上安全指導員（うち1名は主任海上安全指導員）が、海上における小型船による事故の未然防止を図るための活動を実施している。また、奄美海上保安部では、毎年、奄美群島の各漁業協同組合の総会に出席し、海難防止講習会を行うほか、大島支庁が実施する漁船登録の検認に同行し、漁船に対して海難防止指導を実施している。

港則法に基づき名瀬港長として、名瀬港内における海上工事や行事の許可、危険物荷役の許可等、船舶交通の安全及び港内の整とんを図るための業務を行っている。

奄美海上保安部が管理する灯台は、管内で最古の曾津高埼灯台（明治29年11月初点）を初めとする灯台27基、その他に導灯5基・指向灯2基・照射灯2基の合計36基がある。そのうち半数以上は太陽電池化及びLED化されている。

また、奄美海上保安部では海の安全に関する情報を提供する業務を行っている。

海の安全情報により、プレジャーボート、漁船等の船舶運航者やマリレジャー愛好者の方々に対して、灯台で観測した風向、風速、気圧などの局地的な気象、海象の状況、海上工事や行事の状況、海上模様が把握できるライブカメラなどの情報をパソコン、スマートフォン用サイトで提供しているほか、24時間体制で海上保安庁が発表する緊急情報等を、事前に登録されたメールアドレスに電子メールで配信するサービスの提供も行い、海難の未然防止を図っている。

16-11 海難事故の発生状況

資料：奄美海上保安部

(ア) 船舶事故隻数等の推移

項目	年	平成26年	平成27年	平成28年
事故隻数(隻)		20	16	13
死亡・行方不明者数(人)		0	1	0

(イ) 船舶事故の種類別内訳

(隻)

種類	衝突	乗揚	転覆	火災	浸水	機関故障	推進器障害	運航阻害	行方不明	その他	合計
平成26年	2	5	1	0	6	1	3	2	0	0	20
平成27年	5	4	2	0	0	0	0	1	0	4	16
平成28年	6	3	0	0	0	1	1	0	0	2	13

(ウ) 海上における人身事故者数の推移

(人)

項目	年	平成26年	平成27年	平成28年
事故者数		31	25	24
死亡・行方不明者数		17	17	15

(注) 死亡・行方不明者数は、事故者数の内数

(エ) 海上における人身事故の種類別内訳

(人)

	船舶乗船中の人身事故					海浜事故				合計
	海中転落	負傷	病気	中毒	その他	遊泳中	磯遊び中	釣り中	その他	
平成26年	1	5	2	0	0	3	3	3	14	31
平成27年	2	3	3	0	0	4	2	0	11	25
平成28年	1	5	3	0	2	4	1	1	7	24

16-12 機動力（巡視船艇）

資料：奄美海上保安部

期日：平成28年12月31日

船名	所属	総トン数	航行区域	就役年月
あまぎ	奄美海上保安部	1320	近海	平成22年3月
かいもん	奄美海上保安部	220	近海	平成16年4月
いそなみ	古仁屋海上保安署	105	近海	平成26年1月
ぱるさあ	古仁屋海上保安署	4.7	沿海	平成8月3月

16-13 船舶交通安全協議会

資料：奄美海上保安部

期日：平成28年12月31日

組織の名称	会員数	設立年月日	主な活動海域
奄美地区小型船交通安全協議会	202名	昭和49年12月17日	奄美大島（奄美市名瀬）
瀬戸内町小型船舶交通安全協議会	19名	平成57年10月6日	瀬戸内町周辺海域

16-14 奄美群島地区スキューバダイビング安全対策協議会

資料：奄美海上保安部

期日：平成28年12月31日

会長名	事業所名	加入団体数	設立年月
中田留弘	奄美ダイビングセンターとめ	40	平成元年4月

16-15 奄美海上保安部が管理する航路標識の市町村別設置状況

資料：奄美海上保安部
期日：平成28年12月31日
単位：基

市町村別	区分	灯台	導灯	指向灯	照射灯	計
(奄美大島)		14	1		1	16
奄美市		6	1			7
大和村		1				1
宇検村						
瀬戸内町		6				6
龍郷町		1			1	2
(喜界島)		4				5
喜界町		4				4
(徳之島)		5	1		1	7
徳之島町		2	1		1	4
天城町		2				2
伊仙町		1				1
(冲永良部島)		2	2	1		5
和泊町		1	2			3
知名町		1		1		2
(与論島)		2	1	1		4
与論町		2	1	1		4
合計		27	5	2	2	36

(注) 奄美大島には、加計呂麻島、請島、与路島を含む。

16-16 民間救助組織

資料：鹿児島県水難救済会
期日：平成28年3月31日

設立年月日	組織の名称	代表者	住 所	救助勢力
平成7年1月31日	与論救難所	南 政吾	鹿児島県大島郡与論町茶花32-1	人員 53名
平成9年1月30日	和泊救難所	伊地知実利	鹿児島県大島郡和泊町和泊10	人員 29名
平成9年1月30日	知名救難所	平安正盛	鹿児島県大島郡知名町知名307	人員 40名
平成10年7月7日	喜界救難所	川島健勇	鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地	人員 92名
平成11年8月12日	天城救難所	久 幸 助	鹿児島県大島郡天城町平土野 2691-1	人員 32名
平成12年11月1日	伊仙救難所	大久保 明	鹿児島県大島郡伊仙町伊仙1842	人員 103名
平成13年5月28日	龍郷救難所	徳田 康 光	鹿児島県大島郡龍郷町浦110	人員 240名
平成13年12月1日 (平成19年3月19日)	奄美市救難所 住用支所	朝 山 毅	鹿児島県奄美市住用町大字西仲間 111	人員 31名
平成13年12月27日 (平成19年3月19日)	奄美市救難所 笠利支所	朝 山 毅	鹿児島県奄美市笠利町大字中金久 141	人員 65名
平成14年1月1日	宇検村救難所	元 田 信 有	鹿児島県大島郡宇検村湯湾915	人員 137名
平成14年3月4日	大和救難所	伊集院 幼	鹿児島県大島郡大和村大和浜100	人員 193名
平成14年4月1日 (平成19年3月19日)	奄美市救難所 名瀬支所	朝 山 毅	鹿児島県奄美市名瀬幸町25-8	人員 70名
平成14年4月1日	瀬戸内救難所	房 克 臣	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋 船津23	人員 175名
平成14年7月1日	徳之島町救難所	高 岡 秀 規	鹿児島県大島郡徳之島町亀津7203	人員 61名

(注) 奄美市救難所各支所の上段の年月日は改組前のもの